

カトレア

Cattleya

2013 Spring

92
平成 25 年

川内市医師会立市民病院

CONTENTS

特集 開院 20 周年記念祝賀会
ワークライフバランス／資格取得
看護部だより「ひまわり」
新人紹介
身体に優しい健康レシピ
リレーエッセイ

基本理念

私たちは、信頼される地域医療支援病院として、
医療を通じて地域社会に貢献します。

基本方針

1. 患者さんの権利を尊重し、信頼される
高次救急医療の確立を目指します。
2. 職員が互いに尊重しあう職場作りをめざし、
チーム医療の充実に努めます。

患者さんの権利

1. 良質な医療を公平に受ける権利があります。
2. 自分の病気について納得するまで十分な説明を受け、
その上で検査や治療を選択するとともに
その医療機関を決定する権利があります。
3. 個人の情報は保護される権利があります。
4. 自分の診療について知る権利があります。

平成25年4月6日(土)

開院20周年記念祝賀会

於 グリーンヒル



本日は多数のご来賓の皆様方をお迎えして、川内市医師会立市民病院の開院20周年記念祝賀会を催すことができますことに、まずもって心より御礼申し上げます。土曜日の夕方という貴重な時間にもかかわらず、多数ご参集頂きまして、誠にありがとうございます。

さて当市民病院は平成5年4月にこの薩摩川内市永利の地で開院となりました。ここに至るまでは、創立当初よりの職員の方々及び、鹿児島大学各教室のご協力、川内市医師会員の先生方、また、薩摩川内市の行政関係を始めとする地域住民諸氏のご理解の賜物と感謝いたします。

当院は開設当初より高い設立理念を掲げており、救急部門の充実や、その当時、地域では串木野にしかなかった脳神経領域の診療、さらにはリハビリテーションの充実などをうたい文句にして、医師会員向けに開放された共同利用型病院として運営されています。医師会員の先生方との連携を基本にして、高度医療機器の共同利用を推進しつつ、地域医療に貢献することを第一の目標と定めています。平成12年1月には県下で2番目となる地域医療支援病院の指定を受けるにいたしました。

厳しい医療事情の中でも地域住民のた



祝宴挨拶

院長
石部 良平



めにハード面、ソフト面を拡充してゆく姿勢には変わりはありません。このことは、大学の関連教室のご協力とともに、川内市医師会の先生方、薩摩川内市長さんを始めとする行政関係の方々の温かいご支援があったからこそ感謝いたします。

世間を見渡してみますと、医療に対する逆風が強く、また、病院そのものに対する要求も益々高まっているように感じられる今日この頃です。病院の危機管理体制、感染防御、災害対策、患者サービスへの需要の高まりなど、どれ一つとってみても、ひと昔前と比べて格段に洗練されたものを要求されていることが感じられます。当院はそれぞれの課題に対して、専門性をもつてきっちり取り組んで行きたいと思っています。

ます。

私たちの病院は産婦人科、小児科関係の診療科を持ちません。しかしながら、当院独自の診療科の専門性と、救急医療を中心とした総合診療的な側面は抜群だと思っています。特に循環器疾患や脳神経疾患、さらに整形外科、消化器疾患、呼吸器疾患に対しては当院の独自性が発揮されており、当地域にはなくてはならない存在となっています。地域医療を病院単位で考えるのではなく、地域をひとまとめのものと考えた時、二次医療圏における他医療機関との連携は欠かせません。当院の独自性を発揮しつつ、川薩地域の会員医療機関と積極的に連携を図りながら、患者さんの負担を軽減してゆく方向を求める

べきだと思います。また、勉強会などを通じて周囲の医療関連機関、行政などと連携を深めてゆくことが望めます。当院におきましては、看護部、薬剤部、総合リハビリテーション部、栄養管理部、医療技術部等々の面々、さらに事務部門、地域医療連携室、医師事務作業補助者等も着実にのびてきており、十分に時流を捉えていると感じています。さらに、感染対策、危機管理などを始めとする各種委員会も多数発足しており、日常の診療を支えて頂いています。過去10年間で病院に求められる事項は爆発的に増加しています。当院としましても常にそのことを念頭に置き、研鑽を重ねてゆく所存です。

次の10年に向けては、少しでも世間の

常識を先取りし、当院の診療スタイルを構築して行くことが肝要かと思えます。つまり、独自性を探求して行くこと、そして当院がこの川薩地域で何を求められているのかというところを、引き続き、大学の関連教室の先生方や医師会員、行政、地域住民の方々と模索して行かなければなりません。地域医療とは医療機関のみで作り上げるものではなく、地域住民の方々と一緒に作って作り上げるものだということをくれぐれも肝に銘じておきたいと思っています。以上、新たな10年への決意を述べ、開院20周年の節目の挨拶と致します。

本日はどうもありがとうございました。



いい仕事しよう。 いい人生しよう。

厚労省HPより

ワークライフバランス（WLB）とは、ワーク（仕事）とライフ（仕事以外の生活）を調和させ、性別・年齢を問わず、誰もが働きやすい仕組みをつくることです。日本では2007年（平成19年）末、政府、地方公共団体、経済界、労働界の合意により、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」が策定され、現在、官民を挙げて様々な取組みが進められています。

日本看護協会では、平成19年度から多様な勤務形態の導入を通じて、看護職のWLBの実現に向けて取り組んできました。平成22年度からは、都道府県看護協会と日本看護協会が協働して、地域を主体に看護職の働き続けられる職場づくりのための活動を全国的に展開する「看護職のワーク・ライフ・バランス推進ワークショップ」事業をスタートし、昨年開催されたワークショップに当院からも5名のスタッフが参加し、看護部を中心に「ワーク・ライフ・バランス」に取り組んでいます。

今回、この活動の一環として「ワーク・ライフ・バランス ポスターコンクール」を行い、2月4日に表彰式がありました。入賞者は下記のとおりです。



金 賞 3 西病棟 溝口 二久美さん



銀 賞 リハビリセンター 芝 真裕子さん



銅 賞

回復リハビリ病棟 小牧 愛さん

医療安全管理室 城ノ下 実千代さん 中野 智子さん

特別賞

手術室 寺崎 美和さん

質の高い医療を提供し続けるために 自ら学び・共に育つ 私たちは医療人としてのキャリアアップを支援します。

当院では医療の質の向上をめざし、資格取得・研修参加など職員のスキルアップを応援しています。

教育図書委員会では職員として、基本的に必要な教育を組織的・継続的・計画的に行い、職員の質向上・本施設利用者に対する医療の質やサービス向上を目指し、継続的・横断的に委員会活動を行っています。また、各職員が社会人として、あるいは医療人として臨床の業務をこなすとともに、日々学び、臨床・教育・研究を両立させる為の環境整備として、4月と10月の年2回市民病院学術発表会の開催や病院図書室の運営、ネット上での文献検索・閲覧システムを導入しました。

看護部では教育担当師長を配置し、院内教育やチャレンジ制度等個々のキャリアアップのための支援体制を構築しています。今までに感染管理・集中ケア・緩和ケアの認定看護師が誕生し、その専門性を活かした活動を行っています。

平成24年度の資格取得者数は下記のとおりです。

所 属	職 種	氏 名	資 格 名
薬 剤 部	薬 剤 師	石原 義久	感染制御認定薬剤師
看 護 部	看護助手	富永いずみ	介護福祉士
看 護 部	看護助手	田畑 典子	介護福祉士
看 護 部	看 護 師	白窪 友美	日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡技士
看 護 部	看 護 師	松浦 友香	学会認定自己血輸血看護師制度認定
看 護 部	看 護 師	松元美智子	リンパ浮腫指導技能者
看 護 部	看 護 師	尾ノ上昭男	鹿児島県保健師助産師看護師実習指導者講習過程終了
看 護 部	看 護 師	片平 広美	認定看護管理者制度ファーストレベル教育終了
看 護 部	看 護 師	久留須加寿美	認定看護管理者制度セカンドレベル教育終了
看 護 部	看 護 師	田口 弥生	医療安全管理者養成研修終了
医療技術部	放射線技師	中村 晋輔	血管撮影インターベーション専門診療放射線技師
事務部・診療支援部 ・連携室	相談員・事務	橋口かおり 他 14 名	医療・介護接遇検定 3 級
事 務 部	総 務	山下 香織	ホスピタルコンシェルジュ 3 級



学術発表会



病院図書室

看護部だより

ひまわり

Vol. 23
より抜粋

教育講演会

「家族看護の基本」

「家族力を高める看護」

九州大学病院

急性・重症患者看護専門看護師

久間 朝子先生

2月1日、「家族が患者の支援者として機能できるセルフケア能力を高め家族としての自律を導くケアの実践」についての教育講演会を開催しました。院内から49名、院外から21名の参加でした。

患者にとつての家族の大切さ、家族にとつての患者の大切さを学び、家族看護の重要性について学ぶことのできる研修でした。「患者の一大事は、家族の一大事」であると言われたように、家族は患者の身にかかっていることからパニックになることが予想される中で私たちが患者家族への対応・ケアが重要であることを学びました。また、看護師が家族と



関わる一つ一つの場面が信頼関係を確立する大切な時間であること、患者の身体面への介入だけではなく、患者や家族の自律を導くために問題となることを早期に捉え介入することの必要性を理解することができ、今後の看護に意識して取り入れていかなければならないと感じました。(有馬看護師)

スターティング研修

1月22日

「SP対応(模擬患者体験)」

SP (simulated patient) 模擬患者とは、医学教育や看護教育等の医療関係の授業や演習などで導入されており、模擬患者との会話でそのような状況を経験し、その時の患者が



感じた事を率直に教えてもらうことで、患者にとつて何が重要であり、自分に何が足りないのかに気付く事ができ、コミュニケーション技術を向上させ看護師としての対応方法を学ぶことで、一人一人の感性を育て

ることを目的としています。

今回2つの事例を通して、身だしなみ、視線、位置、声の大きさ、スピード、姿勢、アイコンタクト、全体の印象などをフィードバックすることにより、各個人が自分でも気付いていない癖や態度などを知ることができかけとなりました。また、他者のケースを傾聴することにより、コミュニケーションテクニックを学ぶよい機会となりました。(吉永看護師)

ステップ研修

「看護研究発表会」

2月28日「平成24年度の看護研究発表会」が行われました。

ホップ研修で看護研究について基本から学び、研究計画書を立案しステップ研修へ継続した2年間の研究成果を、短い発表時間内にまとめるのは大変な作業だったと思いますが、この部署も、とても興味深い内容の研究を分かりやすくまとめていました。

普段の自分たちが行っている看護を研究的な視点から振り返る事は、看護の質を向上させるうえで、とても重要なことだと思っています。

今回の看護研究の発表を聞いて、看護研究の持つ意味や重要性に気づいたスタッフはとても多いのではないのでしょうか。(中森看護師)

研修学会参加報告

メデイカルサポートセミナー in
wellbeingの褥瘡対策を考える 鹿児島

外来 栗原 恵主任

1月26日鹿児島市民文化ホール「第2ホール」で開催されたメデイカルケアサポートセミナー in鹿児島に参加させて頂きました。研修内容は、「明日から実践褥瘡予防のスキンケア」「身体にかかる圧の影響と対策 体位変換を考える」「治りにくいキズの見方、治し方」の3部に分けての講演でした。



皮膚の機能に始まり、スキンケアとは：皮膚の観察などの講演内容から「シャボンラッピング」というフットケア。私にとつて初めて耳にする言葉にとっても興味がありました。洗浄剤の選択には、当院でも使用している弱酸性石鹸を用い（皮膚のPHに近く界面活性剤が皮膚に低刺激である）少量のお湯、スポンジを用い泡立て（もっちり泡）を袋に入れ患者さんの足をそのまま袋に入れ（汚れが酷い場合）しばらく放置した後、袋ごと足先に向かって石鹸を取り除いた後、洗い流す方法です。皮膚トラブルのある方など傷つきやすい皮膚を清潔に保つのは勿論の事、こすらずに汚れを落とす他、温かい泡を使う事での保温効果もあります。こういった内容や、体位変換で実際どこにどのくらい圧がかかっているかの実践を交えた講演内容でした。マットレスの選択や、除圧、体位変換から褥瘡予防は日々行われていますが、正しい方法で安楽なポジションニングを考えケアしていく事をあらためて学ぶ事ができました。外来看護のなかで、褥瘡ケアや患者の安楽な体位（除圧）など深く関わる事はありませんが、短時間においても褥瘡の発生に関与する事を頭に置き今後の看護に活かしていきたいと思っています。



米永 理法

脳神経外科
医師

平成25年2月1日付けで前任の滝口先生の後任として赴任いたしました。生まれも育ちも鹿児島です

が、大学は青森の弘前大学を卒業しました。福岡県で救急医療を学び、脳神経外科に興味を持ち、平成24年に鹿児島大学脳神経外科に入局しました。知らないことも多く、病院関係者の皆様にはご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、毎日精一杯働き、薩摩川内地区の皆様のために役立てたらという思いで頑張っていきたいと思います。よろしくお願いいたします。



川畑 孟子

循環器内科
医師

平成25年3月1日付けで循環器科福元先生の後任として赴任しました。平成21年に鹿児島大学を卒業し大学病院・鹿児島市立病院で卒後研修を経て平成23年同年鹿児島大学旧第一内科に入局しました。前任地は都城の藤元早鈴病院で診療行っておりまして。川内市民病院は救急医療に力を入れていることもあり、地域連携や病院スタッフの協力のおかげでとても診療のしやすい環境だと感じております。まだ経験不足や不慣れな点もあるかと思いますが薩摩川内地区の地域医療に貢献できるよう頑張っていく次第ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

新人紹介



1月～3月までに私達の仲間となったスタッフをご紹介します。どうぞよろしくお願いいたします。



佐拔 勝生

医事入院
事務部

今回、新人として働くことになりました。分からないことだらけでご迷惑をおかけすると思いますが、一生懸命頑張ります。ご指導よろしくお願いいたします。



永山 嘉来

総合リハビリテーション部
理学療法士

2月に入職しました。新しい職場で慣れない事も多いですが、初心を忘れず、セラピストとして患者様に信頼される様、日々頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



中原 麻紀

回復リハビリ病棟
病棟クラーク

早く環境と仕事に慣れるように頑張ります。よろしくお願いいたします。



井上 美由紀

外来
看護師

しばらく医療現場から離れていたため、みなさんへご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、日々精進し、たくさんの方を学び頑張りたいと思います。みなさん、ご指導よろしくお願いいたします。

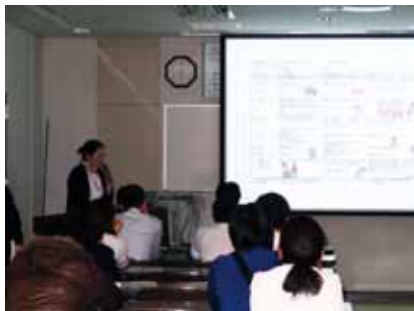


末永 裕子

3階西病棟
看護師

分からない事が多くご迷惑をおかけすると思いますが、1日でも早く職場に慣れ、患者様によりよい看護が提供できるよう頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

クリニカルパス大会



当院ではパス推進活動の1つとして毎年パス大会を企画しており、今年度は1月29日(火)に会議室にて開催されました。全部門のスタッフが参加して、パス充実における情報提供の充実の活動報告、パスの現状、実用的なマニュアル変更にもつて、日々のアウトカム・バリエーション分析、地域連携パスの運営状況の発表が行われ、院内51名・院外6名の参加がありました。

ひなまつり



3月3日はひな祭りです。ちゅうりっぷ園では少し早目の3月1日(金)にひなまつりのお祝いをしました。ペープサートでひなまつりのお話を聞き、宝探しゲームなどで楽しんだ後は、小さなお内裏様とお雛様になって写真撮影。楽しいひなまつり会となりました。

NEWS

Sendai Medical
Association Hospital
January - March



今月のスマイル

お別れ遠足



3月13日(水)、お別れ遠足がありました。当日はあいにくの空模様でしたが、午前中に降り出すことはなく、恒例の日笠山に登ることが出来ました。昼からの雨を避け早目に園に到着。キャラクター弁当や大好物のおかずがぎっしり入ったお弁当を美味しく頂きました。

回復病棟レクリエーション



回復期リハビリテーション病棟では病棟スタッフによるレクリエーションを毎月1回行っています。3月23日(土)は例年よりも少し早い桜の満開に合わせてデイルームにてちぎり絵を行いました。病棟内に咲いた満開の桜に患者さん方は顔をほころばせていました。

菜の花マラソン



新春の薩摩路を駆ける第32回いぶすき菜の花マラソン大会が1月13日(日)、指宿市で開催され、当院より十数名のスタッフが参加しました。過去最多の1万8573人の参加者のなか、雨にぬれた菜の花が彩るコースをひた走り、大雨と強風にさらされながらも、無事完走することができました。

卒園式



3月23日(土)、院内保育所ちゅうりっぷ園にて第19回保育証書授与式が行われ、5名の園児が卒園しました。5人は4月、それぞれの小学校へと旅立ちます。今まで以上に元気に遊び、勉強をしてたくさんの友達をつくってください。ご卒園おめでとうございます。

【卒園児】

吉永亜恋くん 瀬戸口心ちゃん
神田景恒くん 有馬尚哉くん
柿迫千尋くん

職場体験



2月18日より22日の4日間、川内中央中学校の生徒さん3名の職場体験を行いました。当院では、生徒さんたちにとって働いている現場を自分の眼で見ることにより、働くことの厳しさや喜び、礼儀の大切さを体験的に学び、また、自分の特性や将来の展望につなげていくきっかけとなるよう、指導しております。

生徒さんたちの将来の夢のために少しでもお役に立てるよう、今後も継続していきたいと思います。

防災訓練



3月15日(金)、防災訓練があり、夜間の医局から出火したという想定で3階東病棟の患者さんの回復病棟への避難を行いました。また、今回は消火器訓練・放水訓練も行われ、消防機器業者の説明を熱心に聴く職員の姿がみられました。

ボランティア



放射線室の前にある中庭は「微笑みの園」と名付けられ季節の花が飾られています。3月2日(土)川内なでしこライオンズクラブのメンバー7名が中庭の清掃ボランティアに来院され、パンジーやマーガレットなど春の花が植えられました。

お別れ会



3月21日(木)、ちゅうりっぷ園にてお別れ会が行われました。プレゼント交換や、劇・歌などを楽しんだ後は、みんなでオードブルバイキング。あっという間の楽しいお別れ会でした。

看護必要度研修会



3月27日(水)、2階会議室に於いて看護業務検討部会による研修会が開催されました。これは看護師を対象に年2回行われ、昨年必要度研修を受講した3西病棟の2名が講師として伝達を行いました。臨床に活かせる内容に56名の参加者は熱心に聞き入っていました。

第20回

身体に優しい健康レシピ



豚肉とアスパラ&きのこ和え

(エネルギー 209kcal たんぱく質 15.6g 塩分 1.4g)

作り方

- ① 豚肉はたべやすい大きさに切り、湯がいて水を切っておく。
- ② アスパラは洗って水分がついたままラップに包み、レンジで1分半加熱し、水にさらして2~3cmに切る。
- ③ 舞茸、しめじは食べやすい大きさに手で裂き、湯がいて水気を絞る。
- ④ 長ネギはみじん切りに切る。
- ⑤ 長ネギとごま油、塩、砂糖、白だしを混ぜ合わせる。
- ⑥ ①~③と⑤を混ぜ合わせて、お皿に盛り付ける。



材料 (1人分)

豚肉(薄切り) …… 60g
 アスパラ …… 1/2束
 舞茸 …… 1/3パック
 しめじ …… 1/2パック
 長ネギ …… 1/4本
 ごま油 …… 10ml
 塩 …… 小さじ1/6
 砂糖 …… 小さじ1/4
 白だし …… 大さじ1/4

●春の食材

温かくなり、過ごしやすい季節になってきましたね。今回は、季節のアスパラを使用した豚肉とアスパラ&きのこ和えをご紹介します。

アスパラの国内産は4~6月が旬でおいしくて栄養が豊富です。アスパラには、ビタミンA、C、Eが多いです。それ以外にも、アスパラギン酸が含まれています。アスパラギン酸は、新陳代謝を活発にして、たんぱく質の合成を助けて、美肌効果や疲労回復などの効能があります。

是非、アスパラが美味しいこの季節、たくさんのアスパラと共に美肌効果を実感してみませんか？

管理栄養士 二又 朋世

リレーエッセイ

「言葉の力」

総合リハビリテーション部
理学療法士

久玉圭佑

言葉とは、心・気持ち・思い・考え等を表す手段の一つで、日常生活の中で一番良く用いられるコミュニケーションツールの一つです。なぜこのテーマ設定にしたかというと、臨床の現場に携わるようになってから、少しの表現の違いで患者さんに誤解を招いたり、不安にさせてしまう場面が多々あったからです。誰もが人生の中で一度はこの壁にぶつかることがあるのではないのでしょうか。中々難しいのが現状ですが、私は最近この壁を崩すため一生懸命取り組みんでいます。その中で、言葉の表現方法について思い出す出来事があります。それは約2年前、東日本大震災が起きた時のことです。実際にクラスメイトと宮城県へ行き、現地で活動している方達と共にボランティアに参加しました。そこでは被災地という表現を用いず、今から立て直そうという強い気持ちを込めて「復興地」と呼んでいました。同じ場所を示す言葉でも表現を変えるだけで、こんなにも捉え方が違うのかと言葉の重みを改めて感じました。

今後の課題として、知識や技術を身に付けより良いサービスを提供する事も重要ですが、言葉の重さを理解し患者さんに接することが出来るセラピストになりたいです。